

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)事業検証結果

No.	交付対象事業の名称	事業概要・目的	実施内容	事業費 (千円)	うち 交付金額 (千円)	重要業績評価指数(KPI)			自己評価 ※	今後の方針	平川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議 会の評価・意見
						評価指標	目標値	実績値			
1	地方人口ビジョン・総合戦略策定事業	人口ビジョン・総合戦略の策定に当たり必要な基礎資料を得るために、人口の現状分析や将来展望を含めた分析及び住民意識調査を実施し、「平川市人口ビジョン」、「平川市総合戦略」を策定する。	・人口の現状分析や将来展望を含めた分析を専門業者の支援を受けて実施 ・住民を対象とした市民意識調査の実施 ・人口ビジョン、総合戦略策定に関する審議会等の開催	5,193	5,000				A	PDCAサイクルを導入し、基本目標ごとの数値目標とKPIの達成状況を踏まえ、施策等の効果を検証するとともに課題を整理し、次年度に向けて施策・事業の見直しを行い、必要に応じて総合戦略を改訂する。	・適正な自己評価で、地方創生に有効であった。
2	ひらかわ婚活事業補助金	結婚したくても相手と出会う機会がない人たちのために、出会いの機会を創出する婚活応援事業に対し支援することにより、少子化対策や定住促進へ繋げることを目的とする。	・結婚支援活動への補助(上限50万)を実施し、2件の婚活応援事業(カップリングパーティー、電車de合! CON)に補助金を交付	1,000	892	カップル成立人数	5組	2組	B	これまでの「お見合い型」から複数やカップルで何かを成し遂げる「共同作業型」へ内容を変化させ、参加しやすいものにする。参加者に実施内容についてのアンケートをとり、事業のあり方について検討する。	・適正な自己評価で、地方創生に有効であった。 ・多くの人が集まり出会いの場が提供されたことはよかった。 ・他の地域でも事業を実施して欲しい。 ・県と情報共有して実施すればよいのではないかな。
3	平川市地域産業元気支援事業補助金	地域での起業又は新商品開発を行いたくても自己資金に不安があり踏み切れない、また、知識や経験が乏しいことから事業展開の仕方がわからない方がいる。そこで、経費の一部を支援し、アドバイザーと一緒に取組みを行うことで新たな事業展開や経営革新を推進し地域経済の活性化を図る。	・起業または新商品開発者等を行う者に対して補助金を交付 ・補助金額:補助率は補助経費の2分の1(上限:個人50万円、法人200万円)	4,242	2,000	新規起業 新商品開発	1件 7件	1件 4件	A	起業家向け融資制度や経営アドバイザーによる支援を行い、起業家数の掘り起しを目指すとともに事業継続のための対策を検討する。	・概ね適正な自己評価で、地方創生に相当程度有効であった。 ・将来の仕事づくりに繋がっていくと思われるので評価できる。
4	平川市商談会等出展事業補助金	中小企業者等が持つ独自の技術・製品及び工芸品の販路拡大と新規需要開拓を促進するため、商談会等への出展を支援し産業の活性化と発展に資することを目的とする。	・県外の商談会等への出展に要する経費の一部を助成 ・補助金額:補助率は補助経費の2分の1(上限:20万円)	524	300	商談件数	15件	7件	A	小規模事業者でも参加・活用できるような商談会を模索し、規模拡大へつなげられるよう支援する。	・適正な自己評価で、地方創生に有効であった。
5	イベントPR用ねぶた運行事業	市のねぶた祭りは合同運行は2日間と少ないものの、各団体の囃子の違いや流し踊りとの共演など、大変魅力あるものであるが、近隣のねぶた祭りに比較し知名度が低い。そのため、知名度不足の解消と観光客の増加を図るため実施する。	・トラック収納可能なねぶたを製作 ・トップセールスにおいて、ねぶた及びねぶた囃子を披露	6,088	4,000	ねぶた観光動員 数	5万人	4万人	A	この事業による観光客の増加のためには、心に印象を強く残すことが必要であるため、今後もPR活動を実施していく必要がある。また、毎年同じPR内容を繰り返すのではなく、訪問地の選定も含めて、適度に見直しを行いながら進めていく。	・適正な自己評価で、地方創生に有効であった。 ・台湾へのりんごの輸出が好調なので、台湾に持っていけばどうか。
6	観光施設もてなし環境整備事業	市への外国人観光客は徐々に増加傾向であり、施設環境の整備により邦人はもとより、今後も増加が見込まれる外国人観光客を誘致し、旅行地としての評価の向上を図る。	・バリアフリー化整備補助 ・多言語表示整備補助 ・Wi-Fi設置補助	1,300	1,300	外国人観光客	3千人	2.4千人	A	誘導看板等の整備を市が進めながら、事業者に対しては今後も同様の補助を継続していく。	・適正な自己評価で、地方創生に有効であった。
7	駅前イルミネーションプロムナード事業	駅前といえども都会に比べ人通りが少なく、とりわけ冬期間については気温の低下や積雪の影響により更に減少する。そこで、人通りの減少に歯止めをかけ、駅前通りそのものに賑わいを取り戻すために実施する。	・イルミネーションを設置 (設置箇所:農協会館、駅前休憩所、ポケットパーク、商工会館、商工会館隣樹木、中央公園南口、市役所、健康センター植栽帯、街路灯)	15,618	10,000	期間中夜間通行 人数	500人/日	530人/日	B	行政のみならず、商店街や住民も参画する仕組みを検討し事業を継続する。	・概ね適正な自己評価で、地方創生には有効とはいえなかった。
8	子育て住宅支援事業補助金	平川市の少子化と人口減少に歯止めをかけ、子育てに適した住環境整備と定住促進を目的として、住宅を新築・購入する場合に経費の一部を支援し、市外及び県外からの転入を促進するとともに、市内施工業者による施工を促し、経済を活性化させる。	・子育て世帯が住宅を新築・購入する場合にかかる経費の一部を補助 ・基本額:住宅を新築・購入する経費の5%(上限400千円) ・加算額:新築かつ市内施工業者による施工の場合200千円を加算	17,600	12,000	市外(県外)からの 転入数	40人	26人	B	受付期間の見直しや、対象者及び補助金額の拡充を図り、子育て世代のほか市外からの移住者を呼び込み定住促進を目指し、人口減少に歯止めをかける。	・適正な自己評価で、地方創生に相当程度有効であった。 ・よく話題にもなり、この事業は効果があった。
9	学力向上対策事業	今現在平川市内に居住する児童生徒の少子化対策として学習環境を整備する。学力の向上を目的に、学習支援員及び外国語活動支援員を派遣し、個々に応じたきめ細やかな指導を行うとともに、学力の定着を目的に教材等も使用しながら学力の向上を目指す。将来的には子供の学習環境整備をPRし、移住定住につなげたい。	・学習支援員17名を市内小中学校全校に1~2名配置し、学習支援を実施 ・外国語活動支援員2名を市内小学校8校に派遣し、外国語活動支援を実施 ・小学校低学年用掛図を使用し、わかりやすい授業を実施	20,210	14,400	全国標準学力検 査(CRT・NRT) において全国平 均を上回る	100	106.8	A	学習支援員及び外国語活動支援員の配置・派遣を継続するとともに支援員の指導力向上に努める。学習支援員と教職員との相乗効果を上げるとともに、効率的な方法を検討する。	・適正な自己評価で、地方創生に有効であった。
10	平川市情報発信事業	市のプロモーションビデオを制作し情報発信することで、市の知名度を高め、観光振興や特産品の販路拡大を図ることを目的とする。	・プロモーションビデオ(観光PR編、物産PR編、産業暮らし紹介編の3編)を制作 ・県外の旅行代理店にDVDを配布するほか、市のホームページやYouTubeなどで配信	3,446	3,000	ホームページ及 びYouTubeへの アクセス件数	500件	383件	A	今後は、行政のみならず市民・市内企業が一体となって宣伝活動を行い、アクセス件数の増加に努める。	・概ね適正な自己評価で、地方創生に有効であった。

※ 自己評価基準 A:「現在どおりの実施が適切」、「非常に効果があった」 B:「事業の進め方等に改善が必要」、「相当程度の効果があった」 C:「事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要」、「効果があった」 D:「事業の統合、休・廃止の検討が必要」、「効果がなかった」